

建設新聞読むなら建通新聞。[建設専門紙]

県 森林管理に高性能ドローンのデモ飛行

2022/3/4 静岡

静岡県経済産業部森林・林業局は22日、浜松市北区の農林技術研究所森林・林業研究センターで、シーズプロジェクト（静岡市駿河区、大高悦裕社長）の協力もと、SLAMレーザースキャナを搭載したドローンのデモ飛行を行った。

当日は、国の関東森林管理局静岡森林管理署、天竜森林管理署、静岡県産業振興財団から30人が参加した。

シーズプロジェクトが扱うSLAM（Hovermap）レーザースキャナは軽量で歩きながらも、ドローンに搭載しても簡単に短時間で計測が可能で、高画質の3D化を実現している。ただ、この日は、障害物をセンサー感知し衝突することなく木々の間も縫うように自動飛行する、同社のドローン性能に注目が集まった。

県は、森林管理においては、これまでもレーザースキャナやドローンを用いた管理手法の研究は続けている。しかし、ドローンは樹木に接触しないよう上空から、また、地上を歩いての撮影となるため、木々の様子が分かりにくかった。

主催した森林計画課の森林計画班五十嵐香介主査は、「森林管理では、森林の様子や面積などの他、樹木の本数や、生産量を図るための幹の太さまでを調査するが、今回は幹形状までもがスキャンでき、今後、森林をより正確に把握できるのではと期待している」と話していた。



参加者もドローン性能に注目